

## 神戸市西区および稲美町一帯におけるヒクイナの越冬期の生息状況

渡辺美郎・○平野敏明（NPO 法人バードリサーチ）

ヒクイナ *Porzana fusca* の 1 亜種ヒクイナ *P. f. erythrothorax*（以下ヒクイナと呼ぶ）は、2006 年 12 月に改訂された環境省のレッドリストでは絶滅危惧Ⅱ類（VU）に指定された。しかし、日本における本種の詳しい生息状況は、ほとんど調査されていない。そこで、演者らは、2007 年 11 月下旬から兵庫県神戸市付近においてヒクイナの生息状況を調査している。今回は、主に 2008 年 12 月から翌 2009 年 2 月上旬にかけて得られた越冬期の生息状況について報告する。調査は、兵庫県神戸市西区および加古郡稲美町一帯の河川や溜池、農地で行なった。調査には、プレイバック法をもちいた。

河川や溜池、休耕地のヨシ原など合計 201 地点で鳴声再生を実施したところ、2009 年 1 月には 58 地点合計 79 羽のヒクイナの生息を確認した。調査地点の環境を便宜的に中規模河川、小規模河川、溜池の大きく 3 つの環境区分にわけて、調査地点数の比率に基づいて記録個体数を比較したところ、それらの間には有意な違いが得られた ( $\chi^2$  検定  $df=2$ ,  $p<0.05$ )。河川の幅が 10m 以下の小規模河川は、中規模河川や溜池より著しく個体数が少なかった。一方、中規模河川と溜池では、生息個体数に有意な違いは得られなかった ( $\chi^2$  検定  $df=1$ ,  $p<0.05$ )。溜池の調査地においてヒクイナの生息の有無と湿地性草原の面積を比較したところ、生息が確認された溜池の湿地性草原の面積は生息が確認されなかった溜池より有意に広いことがわかった (Mann-Whitney U 検定,  $p<0.05$ )。特に、岸がコンクリートで覆われた植物が生育していない溜池ではまったく記録されなかった。ただし、ヨシやガマなどの面積が広い溜池でも、池の水位が低く完全に乾燥した草原や干上がった溜池ではヒクイナの生息をまったく確認できなかった。一方、中規模河川の明石川では、ヒクイナの生息が確認された地点は、生息が確認されなかった地点よりヨシ原などの湿地性草原の面積が広い傾向があった。さらに、明石川で確認されたヒクイナは、多くが流れから 3m 以内の草地 (67.3%) や流れから 10m 前後離れた湿地性の草地 (16.3%) で記録された。

これらのことから、越冬期のヒクイナの生息には、湿地性草原が重要と考えられた。調査地一帯ではこの時期、農地には湿地性の草原が著しく少なく、明石川や農業用の溜池が重要な生息地となっていた。しかし、調査期間中に 1 か所の溜池は、改修工事が行なわれ、ヨシ原が撤去された。今後、溜池の改修工事が増加すると、ヒクイナの生息状況が悪化する可能性が考えられた。